■親が自分の職業に誇りを有てない時代

傍目には楽さうに見える仕事でも、実際にやってみればそれなりの苦労はあるものです。それに、苦労があってこそ仕事の楽しさが強まるのです。楽ばかりの仕事など直に馬鹿らしくなってしまふでせう。このやうな事は、少しでも深く考へてみれば誰だって気が付くでせうに、わが子の事となると、「こんなに割の悪い仕事は自分の代限りでよい。わが子にはもっと楽な仕事に就かせてやりたい」と思ふのです。これこそ煩悩（ぼんのう）といふものであり、迷ひであるのです。

然し、「蛙の子は蛙」の諺通り、子は親に似て、親の得意とする事にはその子も自然と得意になるものです。だから、子は親の職業を受継いでするのが有利であり、成功する確率も高いのです。昔の父親は、自分の職業に誇りを有ってゐて、それをわが子に大いに吹聴したものです。とりわけその腕前の良い所を誇示して見せたものです。だから、子は父親を偉いと思って尊敬したし、自然と父親の仕事を受継いだものでした。かういふ親子関係だったから、親子の対話も内容が深く豊かなものになり、今よく言はれる「親子の断絶」など起るべくもありませんでした。

所が、今の父親は子供に向って自分の仕事に関する話をしたがらなくなりました。それはなぜでせうか。思ふに、家庭は休息の場であるから、家庭にゐる時くらゐは職場の事を忘れてゐたい、といふ気持があるからではないかと思ひます。とするならば、「職場の仕事は好きではない」といふ事になるでせう。もしも仕事が好きであるならば、家に帰っても仕事について考へたり語ったりする事がいやである訳が無いのです。

私は思ひます。「今は職業が自由に選べる世の中であるから、やりたくてやりたくてたまらない仕事を選ぶべきである」と。つまり「その仕事に従事できるなら、給料や休暇などどうでも良い」と思へる仕事を選ぶべきであると思ひます。所が、今はその反対で、大方の人が給料や休暇の多い少ないを一番の基準にして職業を選択してゐるのです。つまり「仕事とは給料を得るため、好きな遊びをするために我慢してするもの」といふ考へ方であるのです。これでは家に帰ったら仕事について考へたり話したりする訳が無いのです。